

ひとを育てる活動

プレゼントありがとう！ — CMIP エリアの児童、奨学生のクリスマス報告 —



カレッジ生も

「ありがとう！」

CMIP 4校の児童約600人と、ハイスクールとカレッジ奨学生計36名に、タオル、水筒、クッキーの包みが贈られ、4小学校ではいつもより肉がたくさん入った野菜スープとご飯の給食でクリスマスを祝いました。

(写真：アトモロック小)



カレッジ奨学金支給、前期分の報告

今年のカレッジ奨学生 12 名の前期分の支給内訳が届きました。カレッジ奨学金年会費は、一口 36,000 円と設定していて、学生一人当たり支給額の約 50%です。不足分は教育全体会費や一般寄付分を充当しています。円安カンパをお願いした前年度に比べて、為替レートは落ち着いていますが、本年度は会の収支改善のため、学生や父母の自助努力に期待して、1000 ペソ減額の一人当たり年 29,000 ペソ (約 77,000 円) としました。

以下、教育学部 4 年生 2 名の内訳をお伝えします。

家賃は父母が負担し、食費は住み込みの場合ゼロ、交通費は通学と帰省時の合計です。事情により実質 5 年目のジェラルディンは取得単位が少なく、授業料は低めです。

(数字は前期奨学金 38,500 円の内訳です)

	ジェラルディン	マリグレース
授業料	¥11,900	¥18,000
食費	¥10,500	¥0
交通費	¥3,500	¥12,800
教材費	¥9,400	¥6,500
日用品費	¥3,200	¥1,200



教育実習も無事終了。卒業を待つジェラルディン

3月に卒業予定だった JAUW 奨学生ジェニリンの現況

ノビシエート寮閉鎖後は、カレッジ奨学生に会う機会が減りましたが、11 月には、授業を終えた学生 7 名が、三々五々訪ねて来て話を聞くことができました。全員が心配していたのは、大学女性協会(JAUW)の奨学生ジェニリンです。必須教科の取り方を間違えたために、この 3 月卒業は無理と分かって、後期受講手続きをせず、姿を消したということでした。CMIP の 1 月中旬時点の報告では、親にもまだ連絡がないということでした。昨年 of カルメラに続き、その卒業を楽しみに待っていて下さる JAUW 東京支部にはとりあえず状況をお伝えしました。

JOFPA 基金奨学生 (看護師コース在学) 短信

2 年生のモナリサは週末、村のヘルス活動を手伝いながら頑張っています。今年 7 月奨学生になった母子家庭のマージョリーは、弟妹の世話との両立が難しく看護コースを中退、後期奨学金支給は中止しました。新 1 年生のゴルディは、大変だけれど頑張っていますという手紙が届きました。(P3 に掲載)

ミアソン寮生の通うハイスクール訪問



前号でお知らせのミアソン寮生の数名の成績欄が空白の理由を尋ねるため、公立エスコビリヨハイスクールを訪ねました。PTA 会費等の校納金未払いのため、未納は卒業時に問題となるが、進級はできて、成績もすでに記入済みとのことでした。この奨学金の管理問題のほか、遅刻が多い実態も分かりました。これについて、教師たちはミッションの規律の厳しさに言及、毎朝の掃除その他の負担が大きい等、寮母の必要性を強調していました。寮母不在は、寮生の減少と CMIP の財政難が背景にあります。(写真：教師 3 名と同行した元ミアソン寮生 2 名)

教師国家試験、9 月受験生は全員次回再挑戦

CMIP ナブル小学校教師チェリルは、3 回目の挑戦も不合格。初めて挑戦のナブル小のボランティア教師エボニーも不合格。カルメラは受験手続の際、出生証明不備で受験できませんでした。全員次回再挑戦の予定です。ご支援いただいた皆様に、次回こそ朗報をお伝えできるように、3 人とも頑張ってもらいたいと思います。

8 回目の HANDS/CMIP 卒業生同窓会

— 今度こそ、後輩たちに給食と文具の支援 —

12 月 29 日、HANDS の奨学金でカレッジや専門学校を卒業した青年たちが、クリスマス、年末休暇を利用して、集いました。2005 年度から数えて 8 回目になり、近況や悩みを分かち合い、励ましあってきました。

初回から、後輩の奨学金を支援しようという意見は出ましたが、弟妹や親族の支援優先で、実現しませんでした。今年キナム村公立教師をしているエドイン会長他 12 名が出席し、辺境のバンリ小の給食と文具支援に 3 万ペソ基金設立を決めたそうです。